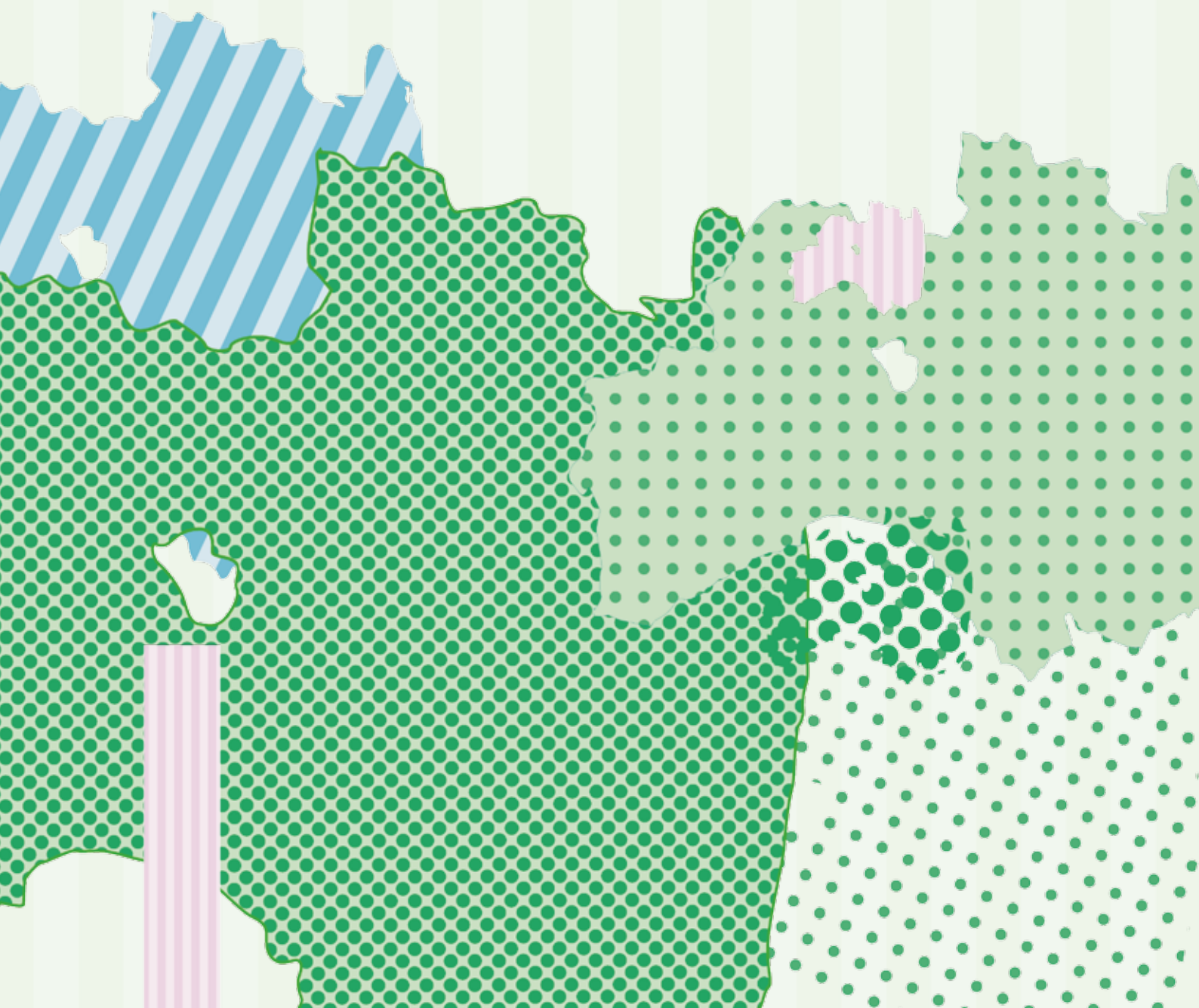


2015年度

ふくしま復興塾

第3期 事業報告書



目次

1. ふくしま復興塾第3期概要……………	2 ページ
2. プログラム実施報告……………	3 ページ
3. 県外事例研究フィールドワーク報告……	9 ページ
4. 最終発表会報告……………	13 ページ
5. 実施結果 ……………	17 ページ
6. 塾生・卒業生の活動……………	31 ページ

はじめに



ふくしま復興塾実行委員長

加藤 博敏

福島を襲った未曾有の災害は放射線という深刻な被害をもたらし、未だその収束は見えず、未だ福島の未来を想像することはできません。

福島を去る人、残る人、家族がばらばらになってしまう人、仕事を失う人、様々な人達があります。その過酷な運命の中で、今も厳然として福島で生まれ育つ若者達があります。

逆境が人を作ると言います。そして今の福島以上の逆境はありません。だとすれば福島からは将来有為な人材が生まれるはずで、もっと言えば生まれて、その人達が福島の未来を創ってゆかなければなりません。福島逆境から、福島や日本を作る未来の英雄が育たなければ、福島に生きる人の過酷な運命とのバランスが取れません。

かつて幕末北越戦争戊辰戦争の一つで敗れた長岡藩は滅亡され、実収にして6割を失って財政が窮乏し、藩士たちはその日の食にも苦慮する状態でした。このため窮状を見かねた長岡藩の支藩から百俵の米が贈られることとなりました。藩士たちは、これで生活が少しでも楽になると喜びましたが藩の大参事小林虎三郎は、贈られた米を藩士に分け与えず、売却の上で学校設立の費用とすることを決定しました。藩士たちはこの通達に驚き反発して虎三郎のもとへと押しかけ抗議しますが、それに対し虎三郎は、「百俵の米も、食べばたちまちなくなるが、教育にあてれば明日の一万、百万俵となる」と諭しました。これが越後の米百俵のいわれです。

このプロジェクトは、「福島の米百俵」福島の若者を育てるプロジェクトです。福島の若者に「本物」に出会う機会を作り、そこから福島の若者が刺激を受け、大きく育つ。「30年後の英雄は福島から出る」ということを信じて、このプロジェクトを進めています。

1 ふくしま復興塾第3期概要

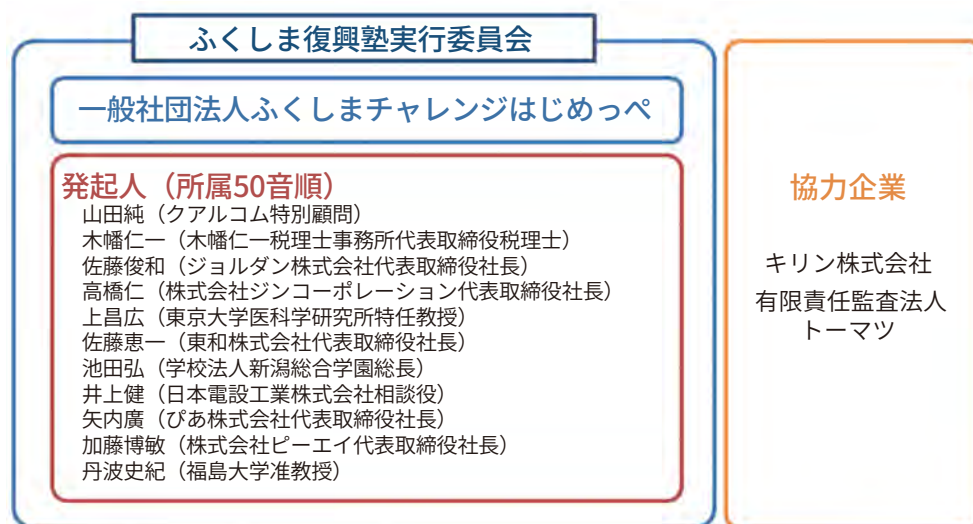
1-1 ● 背景と目的

福島県は、2011年3月11日の地震・津波、さらに翌日の原発事故後、世界に類を見ない危機的な状況に瀕しました。震災後5年が経過し、避難を強いられていた地域でも一部では帰還が進みつつあります。しかし、帰還をした地域では、若い人たちが戻らず極度の少子高齢化に瀕している等、まだまだ課題は山積しています。このような福島の課題は、日本や世界の近い将来の課題とすることができ、福島の課題を解決することは、世界的にも大きな意義があると言えます。

このような背景からふくしま復興塾は、①福島の現状を捉えた上で、福島復興に取り組む志と覚悟を持ったリーダーを育成する、②人類史上稀に見る原発災害が発生した福島だからこそ、顕在化してきたニーズや課題を解決する事業を起こす、の2点を目的として開講しました。第1期を2013年に開講し、2015年度は第3期を2015年7月から2016年1月にかけて開講しました。

1-2 ● 組織

ふくしま復興塾は、福島に縁のある経営者を中心とする発起人の呼びかけのもと、一般社団法人ふくしまチャレンジはじめっぺはじめっぺに事務局を設置しております。また、協力企業として、キリン株式会社様には、第1期より運営資金として、総額3000万円のご支援をいただいています。有限責任監査法人トーマツ様には、第2期より塾生のメンターとしてご参画いただいています。



1-3 ● 企画概要

ふくしま復興塾第3期は、16名の若者を塾生として迎えました。塾生は、約半年のプログラムを通して、福島の地域課題を解決する事業プランや政策プランを作成しました。プログラムは、7月から翌年1月まで、毎月1回の講座を開講しました。また、第1期・2期の卒業生と有限責任監査法人トーマツ様のメンターを迎え、講座の他に毎月のチームミーティングで、各塾生のプランのブラッシュアップを行いました。

2 プログラム実施報告

日 付	担 当	内 容
7月19日(日) ～20日(祝)	株式会社umari 木戸寛孝様	スタートアップ合宿 「ふくしま復興」を歴史的およびグローバルな観点から捉え、そのうえで「自分の軸」を再構築する
8月22日(土)	浪江町役場の皆様	福島の現状を考えるフィールドワーク 相双地域へのフィールドワークを通して、震災・原子力災害当初やその後の経過を学び、福島の実状に対する理解を深める
9月19日(土)	株式会社電通 新井祐一様	中間発表・マーケティングと ニーズ調査の講義 マーケティングやニーズ調査の方法について学び、塾生が捉えている課題の解決策について深める
10月10日(土) ～12日(祝)	一級建築士/ リズムデザイン代表 井手健一郎様 津屋崎ランチ 山口覚様 長島町副町長 井上貴至様	県外事例研究フィールドワーク 地域課題を政策やビジネスで解決した事例（福岡県福岡市・福岡県福津市津屋崎・鹿児島県長島町）を比較対象として、各自の事業構想を深める
11月21日(土) ～22日(日)	クアルコム特別顧問/ 会津電力株式会社 代表取締役副社長 山田 純 様 福島県庁 (元浪江町復興推進課主幹) 玉川 啓 様 木幡仁一税理士事務所 木幡仁一様	先人の事例研究・事業計画の講義 先人の起業家や震災後の対応で活躍した行政職員から、福島の実状に対して事業や施策を実行した経験を学ぶ 塾生各自のプランに基づく事業計画作成の方法を学ぶ
12月19日(土)	ふくしま復興塾事務局	塾生のプランへのフィードバック会 塾生のプランの現状を相互に共有し、ブラッシュアップを行う
1月23日(土)	ふくしま復興塾事務局	最終発表会 塾生が作成したプランのプレゼンテーションを行う

2-1 ● 各プログラムの概要

■ スタートアップ合宿（7月19日~20日）

7月19日に、ふくしま復興塾の第3期が開講しました。当日は主催者として、ふくしま復興塾実行委員長から挨拶がありました。続いて、協力企業である麒麟株式会社様より来賓挨拶をいただきました。その後、塾生やメンターをはじめとする出席者で、福島復興にかける思いを共有しつつ自己紹介を行いました。

合宿2日目となる7月20日は、『『ふくしま復興』を歴史のおよびグローバルな観点から捉え、そのうえで『自分の軸』を再構築する』という題で、株式会社umariの木戸様に講義をいただきました。その後、メンターとともに塾生の事業プランについて考える場を持ちました。



木戸様の講義



チームごとのディスカッション

福島現状を考えるフィールドワーク（8月22日）

現在も避難が続いている浪江町へのフィールドワークを実施しました。当日は、いわきから国道6号線を北上し、福島第一原子力発電所付近を通過して浪江町に入りました。

浪江町内では、まずはサラダ農園を訪問し、川村所長からお話を伺いました。サラダ農園は、震災前に浪江町で野菜等を生産していましたが、震災後に立ち入りが制限されたことによって避難を余儀なくされました。しかし、町への立ち入りが許可されると同時に農園を再開し、現在は鶏卵や花の出荷にまで至っています。さらに、若い世代が戻れる環境を作るため、大学生の地域づくり実習の受け入れも始めました。

その後、「農林水産」・「商工観光」・「生活環境・コミュニティ」の関心テーマに分かれて、各分野を担当する浪江町職員の方々の案内で、町内を見学させていただきました。最後に、いわきにて振り返りのワークを行いました。

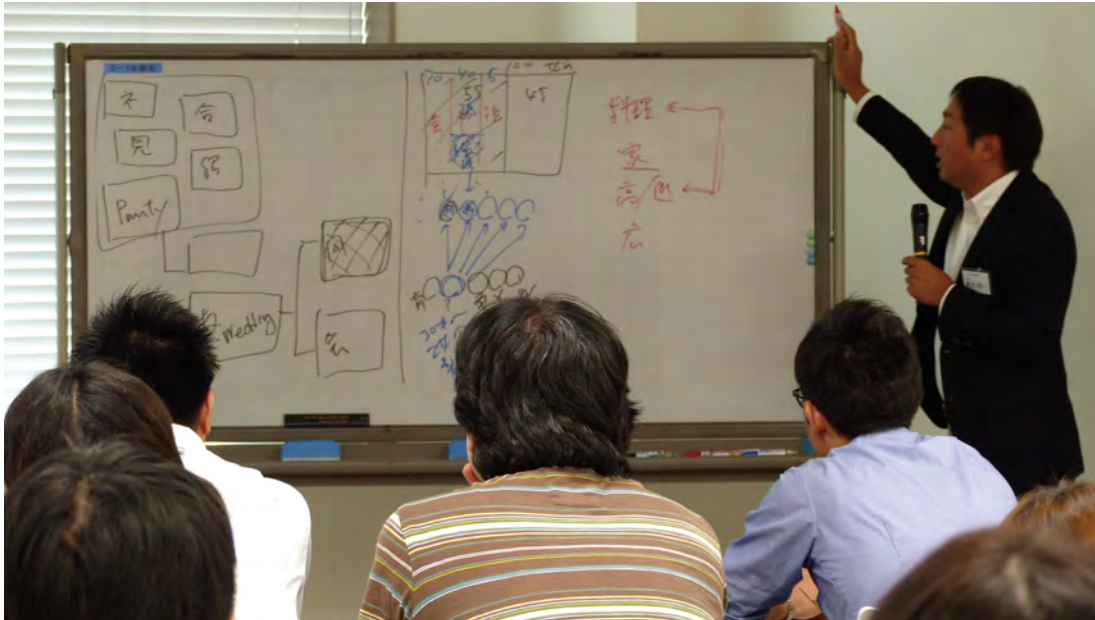


浪江町職員より、水稻の実証栽培についての説明



サラダ農園川村様のお話

■ 中間発表・マーケティングとニーズ調査の講義（9月19日）



新井様の講義



塾生の中間発表(小林賢一さん)

前半の講座やチームでのディスカッションを通して磨いてきた塾生の事業プランの中間発表を行い、発表に対して発起人やメンターからのフィードバックを行いました。その後、塾生のプランがより実現に近づくように、株式会社電通の新井様より最新のマーケティングとニーズ調査についての講義をいただきました。

■ 県外事例研究フィールドワーク（10月10日～12日）

地域づくりで先進的な取り組みをしている九州の3地域（福岡県福岡市・福岡県福津市津屋崎・鹿児島県長島町）を訪問しました。（詳しくは、「3. 県外事例研究フィールドワーク報告」を参照）

■ 先人の事例研究・事業計画の講義（11月21日~22日）

1日目は、福島出身の先輩経営者であるクアルコムの山田様より、震災後に新しい事業として会津電力を立ち上げた経験を共有いただきました。続いて、福島県の玉川様（現在は福島県立医科大学に出向中）より、震災後の浪江町での復旧・復興活動をもとに、プロジェクトを具現化するための考え方についてお話しいただきました。2日目は、税理士の木幡様から、事業計画策定について基礎から講義をいただき、キャッシュフローについて学べるワークを行いました。



玉川様の講義



木幡様によるキャッシュフローのワーク

■ 塾生のプランに対するフィードバック会（12月19日）

最終発表会に向けて、各塾生のプランをブラッシュアップするため、発起人やメンターからのフィードバックを行いました。また、講座の終了後にはふくしま復興塾の塾生・卒業生・メンター等の関係者が集まり、同窓会を開催しました。



塾生のプレゼンテーション(鈴木みなみさん)



同窓会で親睦を深める卒業生等

3 県外事例研究フィールドワーク報告

県外事例研究フィールドワークは、10月10日-12日(福岡空港集合・鹿児島空港解散)で行いました。福岡市で訪問したリズムデザインは、福岡市内で10年もの間、毎年デザインのイベントを開催してきました。その経験や実績の上で、現在では住民と共に、まちづくりや建築を手掛ける事業を展開しています。

福津市の津屋崎ブランチは、古民家を利用して移住者が稼げる小さな起業の支援をする等、津屋崎の地域のまちづくりの中心を担っています。

長島町は、総務省から20代で出向した井上副町長が、地域の現状や課題を見据え、様々な施策を実施しています。例えば、地元の信用金庫と提携し、町出身者が将来地元のリーダーとして戻ってきてもらうための仕組みとして、地元就職した場合には返済した元利相当額が補助される「ぶり奨学金」を導入しました。

日付	訪問先	講師
10月10日	福岡県福岡市	一級建築士/ リズムデザイン代表 井手 健一郎 様
10月11日	福岡県福津市津屋崎	津屋崎ブランチ 山口 覚 様
10月12日	鹿児島県長島町	長島町副町長 井上 貴至 様



津屋崎の海岸での集合写真

3-1 ● 塾生の感想

福岡県福岡市 リズムデザインの感想



株式会社電通テック
緑川 英樹さん

福岡市内でデザインイベントを10年間取り組んできた目的や続けていくために大事なことを、意見交換を通して知ることができた。

まちづくりの手法として、アートを切り口にした取組みは全国各地で行われているが、地元の一般の方々を巻き込んでデザインやアートを表現し、一般の方々が考える機会を設けていたことが、他地域との違いを感じられた。

また井手さんのお話を伺って、自分自身も見習いたいと感じたことがある。その土地のこれまでの歴史や文脈を知るべく、普段から文献を調べているとのことだった。井手さんご本人は設計事務所を営まれていることもあり、設計をする上ではごくごく当たり前のこととおっしゃっていたが、その土地の未来を描くためにも、過去の背景・歴史をよく調べておくことは大変重要であると今一度気づかされた。



井手様の講義



質問をする塾生

福岡県福津市津屋崎 津屋崎ランチの感想

立命館大学
鈴木 みなみさん



山口さんからは、地域の中で津屋崎ランチが果たす役割、理念をお聞きするとともに、同日に津屋崎地区で開催されていた『音楽散歩』を紹介していただきながら、まちあるきを楽しんだ。

山口さんのことばひとつひとつに、経験に基づいた力強さを感じたが、その中でも印象に残ったのは「極めて普通のことをしたい = 時代や場所が変わっても求められること、世代も分野もこえていいねといわれることをしたい」ということば。

心ならず目新しいことや意外性のあることをしなければと力んでしまう自分がいることを認識し、省察する機会をもらった。



まちあるきで出会った風景(山口さんは「シーン」と表現していた)に自然と涙が溢れたのは、素朴で、何気ない暮らしの中に、まちのあるべき姿を見たからかもしれない。同時に、その風景を知らず識らずのうちに手放そうとしているいまの生活に情けなさとかわさを感じていた。

山口さんが実現したいという「本当の働き方・暮らし方・つながり」を体感できたようにおもう。



津屋崎の古民家を改装したカフェにて

鹿児島県長島町 長島町役場の感想



キリン株式会社
本村 源貴さん

「地域づくりは楽しい」これに集約された総合戦略を立てられ、また実際に住民にとって楽しいことが大事だというお考えにはとても共感した。とはいえ、住民に楽しいと思ってもらいたいという『想い』を『実践に移す』ことは非常に難しいと思うが、当日ご一緒した地域の皆さまのお話を聞いたり、井上さんと地域の皆さまのやり取りを拝見するとまさに実践されているのだなど、理屈でなく雰囲気伝わってきた。

とにかく、プランを作成する際には、楽しくワクワクするようなものをやろうと意気込んでスタートしても、気づけば難しい顔をして難しいことを考えていることが実体験として多くある(今、まさにその状態に直面している)。

何かを実践するときは、節目節目で、スタート地点の志に立ち返って、楽しいことを最後まで楽しかったと言えるようにプランの企画、企画の実践を行っていきたいと思う。



井上様の講義



講義を受ける塾生

4 最終発表会報告

ふくしま復興塾第3期最終発表会は、2016年1月23日に、郡山市の市民交流プラザ大会議室にて開催しました。当日は、来賓としてお越しいただいた郡山市の品川萬里市長をはじめ、総勢130名を超える方にご参加いただきました。当日は、以下の1～9番のプランの全体発表を行った他、全12人がポスター発表を実施しました。

● 発表プラン ●

	プラン名	塾 生	所 属
1	変革への挑戦 ～地域コーディネーター職員の第2章～	遠宮昭則	郡山市役所
2	ローカル線の王者「只見線」を 世界へ発信プロジェクト	佐藤千紘	福島県庁
3	飯舘村の環境整備を仕事に！ ～草刈りが仕事になる！～	佐藤健太	佐藤工業
4	葛尾村の生きがいづくり ～地域プロデューサーとして提案～	木山侑香	一般財団法人 ふくしま市町村支援機構
5	leaf このまちの「楽しみ」を探して	緑川英樹	株式会社電通テック
6	浜通りを走る！ ワハハマBOOKS & BREAD	古谷かおり	ワハハマ合同会社 (設立準備中)
7	鈴木農園 ～“農家”から“農業”へ First Stage～	小林賢一	神奈川大学
8	Kuwa プロジェクト イン 東和	佐藤真平	NPO法人ゆうきの里東和 ふるさとづくり協議会
9	「我らの“誇り”伝道」プロジェクト	本村源貴	キリン株式会社
10	「イクボス宣言」加速化プロジェクト	土田かおり	福島県庁
11	暮らしの地図プロジェクト	鈴木みなみ	立命館大学
12	川内村の中と外をマッチング、たまホーム！	西川珠美	川内盛り上げっ課事務局



満員の会場



全体発表(佐藤健太さん)



ポスター発表(佐藤千紘さん)



全体発表(木山侑香さん)



ポスター発表(西川珠美さんと来場の皆様)



発表を見守るメンター

4-1 ● 各賞受賞者

ふくしま復興塾実行委員会と協力企業の皆様での協議の結果、以下の4名が賞を受賞しました。

ふくしま復興塾グランプリ

ワハハマ合同会社(設立準備中) 古谷かおりさん
『浜通りを走る! ワハハマBOOKS & BREAD』

ふくしま復興塾準グランプリ

NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会 佐藤真平さん
『Kuwa プロジェクト イン 東和』

KIRIN賞

郡山市役所 遠宮昭則さん
『変革への挑戦 ～地域コーディネーター職員の第2章～』

トーマツ賞

麒麟株式会社 本村源貴さん
『「我らの“誇り”伝道」プロジェクト』



グランプリの古谷さんと加藤実行委員長



受賞者(左から本村さん、遠宮さん、佐藤さん、古谷さん)

4-2 ● アンケート結果

来場者の皆様のアンケートで、以下のような感想をいただきました。

「発表者の福島に対する熱い思いを感じたとともに、発表を通じて福島が今抱えている問題点
が分かって満足しました。」(30代男性)

「初回から毎年参加しているが、地域の課題、ニーズもどんどん変わっていることに気づいた。
3.11から5年という月日を感じる。皆さんの発表は自分の事業を見つめるいい機会になっています。
ありがとうございました。」

5 実施結果

5-1 ● 塾生からの感想



ワハハマ合同会社(設立準備中)
古谷 かおりさん

これまでは東京に住みながら福島への関わり方を模索していたが、ふくしま復興塾への入塾を機に頻繁に福島の実地に通り、人と会い、とにかくインタビューして歩いた。インターネットなどを通してでは得られない、生の情報を体で感じることができた。

自分と社会との接点をとことん掘り下げて考える濃密な7ヶ月間により、これまでは漠然としていた「福島でやりたいこと」の輪郭がはっきりした。それは家族や地域の間でいさかいのおこらない環境を作りたい、という原点。

その想いを出発点に、これから福島に移り住んで、双葉郡でのキッチンカーの事業を立ち上げる。経営等の知識はないので不安も多いが、メンターには卒業後も定期的にアドバイスをいただいているので、少しずつ事業を形にして行きたい。



NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会
佐藤 真平さん

ふくしま復興塾では、事業プランをブラッシュアップすることで、自分の所属している団体での仕事がどこに向かっているのか、どのような課題に立ち向かっているのかを具体的にすることができた。メンターのフィードバックを受けながら事業プランのロジックを突き詰めて考えた経験は、これから仕事をしていく中で貴重な機会となった。講座の中では、浪江町のフィールドワークでサラダ農園の川村さんの話が特に印象に残っており、信念を持って前に進む姿から自分の目指すモデルにしたいと感じている。これから、復興塾と一緒に議論をしながら考えた仲間や、応援してくれる人たちとの繋がりを、東和地域での仕事に活かして行きたい。

5-2 ● メンターからのメッセージ



有限責任監査法人トーマツ
田辺宗樹さん

第2期につづき、今期もふくしま復興塾にメンターとして関わり、塾生の皆様に伴走し、事業構想のブラッシュアップのお手伝いをさせて頂きました。開講当初は、課題解決に対するぼんやりとした想いに止まっていた塾生の皆様が、約7か月にわたる講義やフィールドワーク、そして講師やメンター、塾生間の相互対話を通じて徐々に考えが整理、具体化され、事業構想のブラッシュアップと共に塾生ご自身も成長されていく過程をみて、とても頼もしく感じたと同時に、改めてこのような意義深い活動に関わる機会をいただけたことに感謝申し上げる次第です。

ふくしま復興塾は、課題先進地である福島そして日本の将来を考え、自らが行動する意欲のあるチャレンジ精神に富んだ方々が福島県内外から集う、エネルギーに溢れた「場」であり、そこには大きな可能性があると感じています。ふくしま復興塾から生まれる地域・世代を超えたあらゆる繋がりが、これからの福島、日本そして世界を創る原動力になることを祈っています。

5-3 ● 塾生の発表プロジェクト

6 塾生・卒業生の活動

ふくしまベンチャーアワード(2013年より開催されている福島県主催のベンチャーコンテスト)において、3年間で4名のふくしま復興塾卒業生が出場し、全員が入賞しました。

2013年	最優秀賞	株式会社夜明け市場	松本 丈 さん
2014年	銀賞	株式会社IIE	谷津 拓郎さん
2014年	銅賞	株式会社プレイノベーション	菅家 元志 さん
2015年	最優秀賞	株式会社コンセプトヴィレッジ	馬場 大治 さん



2015年度の表彰式にて(前列左から3人目が馬場さん)



.....

2015年度ふくしま復興塾第3期 事業報告書
平成28年3月発行
編集発行：ふくしま復興塾実行委員会
(一般社団法人ふくしまチャレンジはじめっぺ内)
〒963-8024 福島県郡山市朝日1-20-11オフィスイン21 2階
電話 024-905-1275

.....

